



序章 技術士への道

私 が技術者への道を選び、技術士になったのは日本の敗戦に淵源があるといっても過言ではない。

軍人の家庭の長男として生まれ、陸軍幼年学校を卒業し予科士官学校在学中に終戦を迎えた私は、職業を考える前に国の再建にどのような形でかかわれるかという、いささか自意識過剰な思いにとらわれていた。父は南支からビルマへ聯隊長として移動中であり、母と弟妹達は大分県竹田の近辺の大野村に疎開中であった。

ここに復員してしばらく休養しているうちに、軍学徒を復学させるという噂が伝わって来る。鹿児島同期生からも編入学試験受験の勧誘がある。母もしきりに進学を勧める。しかしながら気は進まない。